

週刊 **タバコの正体**

今年も3月11日が過ぎていきました。あの東日本大震災から2年が経過したのです。2年前の震災当日、2年生は和工の入学試験を受けた日だった事を覚えているでしょうか。1年生の諸君はまだ中学生でしたが、その日の事を覚えていますか。

震災による死者は1万5880人、2年を経過しても行方が分からない人が2694人もいます。テレビで繰り返し放送された津波や被災地の様子は、現実のものだと思えない凄まじさだった事を思い出して下さい。そして予期せぬ地球の自然現象で家族、友達、家、財産、仕事、学校・・・その他多くのものを失った人たちのその後を思いやってみて下さい。あらためて亡くなられた方々のご冥福と被災され方々の生活が回復される事を、皆でお祈りしましょう。



さてもし、この地震が東北ではなく、東南海沖で起きていたら私たちが同じような立場に立たされていたかも知れません。『あんな津波が押し寄せて来るのがわかっていたら、万一のために逃げ場所を調べておくべきだった。それに逃げるリハーサルもしておくべきだった。』と後悔しても遅いのです。

「来るのがわかっていたら・・・」というのは、事が起こった後の言い訳にしかありません。そうなる可能性があるのなら、少しでもそれを回避する手立てを打っておく方が良いに決まっています。この機会に是非考えてみて下さい。

そして、この事は「タバコを吸うと病気になる可能性があるのなら、それを回避する手立てを打っておく方が良い」と同じことだと思いませんか。

産業デザイン科 奥田 恭久